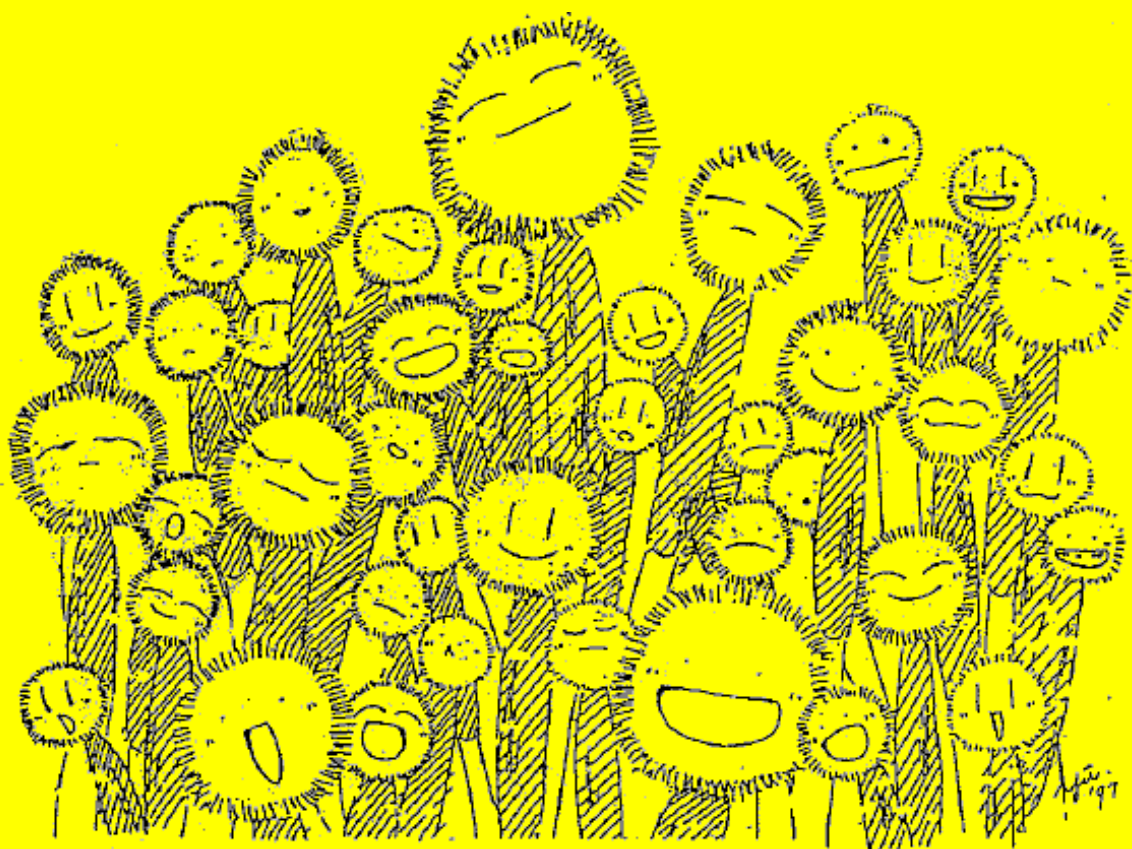


うた 葱ぼりずの詩



千葉県立松戸向陽高等学校 福祉教養科活動委員会 機関誌

第二号 (通算 19 号)

2013 年 3 月 5 日発行

～ 目 次 ～

1 刊行によせて	2
2 進路報告	4
3 福祉教養科活動委員会年間報告	5
4 特集1『福祉教養科ランキング』	7
5 特集2『卒業目前！突撃！先輩にインタビュー』	10
6 先生方からのメッセージ	14
7 編集後記	18

葱坊主の唄

作者不詳

僕らは生まれた 小さな畑で
僕らは育った 大きな世界に
いつか旅立つ日を待ちながら
何かできることを探していた

キレイな花は咲かせられないけれど
僕らにしか咲かせられない花がある
僕らにしか唄えない唄があるはずだから
生きて 生きて 生きて 唄う

空はずっと遠くでずっと広くて
僕らの唄はきつと届かないけれど
僕らの想いはどこまでも届くはずだから
ずっと ずっと 唄う

葱ぼうずの詩の由来

本校は旧松戸矢切高校と旧松戸秋山高校が統合し、新しく松戸向陽高校としてスタートしました。福祉教養科は松戸矢切高校に設置されていて、これまで多くの卒業生を輩出してきました。機関誌名は松戸矢切高校周辺に広がる見事なねぎ畑から、葱ぼうずと当時の生徒を重ねて、不揃いだが柔らかな、味のある、香り高い「葱ぼうず」であれと願い、“葱ぼうずの詩”となったそうです。本機関誌も、その精神を引き継ぐとともに、新校としすべてが新しくなる中で、巣立った子どもたちの帰る場所であれたら幸いと思い、機関誌名“葱ぼうずの詩”を受け継ぎました。

刊行によせて

「人間を救うのは人間だ」赤十字の言葉より

校長 佐久間 敦子

人と人との関係を考えて時、私たちはよく、「〇さんの気持ちがわからない」「私のことをわかってくれない」と思うことがある。教師と生徒、親と子、友人、職場の人間、介護士と利用者さん…理解がないところに良い関係は生まれない。

相手の考え、心を受け入れるには、まず自分の考えや心も引き出して外に出さなければならぬ。心の中身がいっぱいだと、新たな心を詰められない。相手を大事に思うなら、気にしてください。よく見てください。私たちはお互いに教育や福祉のプロとして社会に関わります。気にかけ、目をかけ、声かけて、相手の今を受け止めよう。思いが相手に伝わるように働きかけよう。心と言葉と行動で。人間を救うのは人間だ。

「やればいい」というのが究極の方法だと思う。

教頭 村瀬 繁義

最近読んだ本にこんな一文があった。＜躰がだるいとか、体調が悪いとか、全然気持ちが乗らない状態でも、やれるものである。本当に動けないほどの重体でないかぎり、たいていのことはやれる。「やってみたことはあるのか？」とききたい。僕は、やる気満々の状態でやったことなんて記憶にない。大好きなことであっても、面倒くさいけど今日もやるか、と腰を上げるのである。＞（「常識にとらわれない100の講義」森博嗣 大和書房）

4月からの新しい生活には、きっとこんなことがあるかもしれない。そのときに思い出してもらいたい。つべこべ言わずにやってみる。どこかであなたのことを見ていてくれる人は必ずいます。

伝統の継承

教頭 太田 恭正

福祉の道に進みたいという想いが、長期の介護実習を充実したものにし、高い国家試験合格者を導き出している。強く想うこと、そして、それを維持させていくことは、とても難しいが重要であり、強い力を発揮する源となる。

また、介護実習報告会や学科集会など、下級生が上級生から学ぶことができる機会が多く設けられている。上級生のすばらしい報告を聞き、しっかりと吸収することにより、次年度は、それを越えるような報告をしてくれるはずである。このように、よき伝統を引き継ぐとともに、学年の枠を越えた絆をつくりだす、福祉教養科の環境はとてもすばらしいと思う。

平成25年度から福祉教育拠点校となる本校の福祉教養科が、さらによりよいものとなることを願っている。

時間の大切さ

福祉教養科学科長 清水 弘恵

日々、あっという間に時間が経って行きます。そのスピードは年々速くなっているような気がします。人生が折り返し地点に達した時、「これから是一分一秒を大切に生きよう」と心に誓いました。

時間を大切にしよう意識し始めてから、気づいたことがあります。短い時間でも集中すれば、意外にたくさんことができるということです。時間のやり繰りをして、段取りを考えれば、短時間では絶対に無理だと思っていたことができてしまうのだということを実感しています。もう少し若い時に気づけば、私の人生は変わっていたかもしれません。

今は、時間がとても愛おしく感じます。時間に貪欲すぎるのは野暮ですので、余裕を持って、与えられた時間を大事に過ごしていきたいと思います。

全員で介護福祉士になる！

福祉教養科活動委員会委員長 平松 実咲

今年度、福祉教養科活動委員会委員長をさせていただきました、平松実咲です。私達は1月の国家試験に向けて「朝学習」を始めました。朝学習では1問1答の問題集や過去問を解いたりしました。実際、朝学習で解いた問題が模擬試験に出ていました。しかし、朝学習は8時20分からと少し早い始まりだったため、全員がそろって取り組むことがなかなかできませんでした。そこで、先生と国家試験対策委員のメンバーで話し合いをして、朝学習の内容を変更しました。すると、8時20分から取り組む人数が増えました。私達の最終的な目標は「全員で介護福祉士になること」です。同じ目標の達成にむけて、みんなで協力していくことが大切だと思います。クラスメイトや先生方、先輩、後輩と力を合わせて頑張ってください。

成長できた1年間

福祉教養科活動委員会副委員長 石川 玲奈

今年度、福祉教養科活動委員会副委員長をさせていただきました、石川玲奈です。私は元々人前に出て、リーダーシップをとれるような性格ではないので、集会などでの司会はとても苦手意識がありました。

ですが、今年度副委員長として活動をさせてもらい、集会の司会などをさせていただくうちに、未熟な部分も多かったと思いますが皆さんが協力してくださったおかげで、私にとって自信へと変わっていきました。そしてとても成長できたと思います。

皆さんも苦手なことも挑戦してみてください。そして自分の可能性を広げていってください。一年間ありがとうございました。

平成24年度 進路状況

平成25年2月現在

就 職	特別養護老人ホーム 明尽苑 特別養護老人ホーム 昂 特別養護老人ホーム マザーズガーデン 株式会社 マザアス 社会福祉法人 慶美会 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 社会福祉法人 さざんか会 特別養護老人ホーム 秋桜 特別養護老人ホーム 八幡苑
大 学	千葉商科大学 ルーテル学院大学 淑徳大学 立教大学 植草学園大学 東洋大学 浦和大学
短期大学	千葉明德短期大学
専門学校	八千代リハビリテーション学院（理学療法科） 千葉県立野田看護専門学校 東京医薬専門学校（言語聴覚士科） 江戸川大学総合福祉専門学校 西新井看護専門学校

進路指導部の先生方をはじめ、先生方
ご指導ありがとうございました。



福祉教育部会マスコットキャラクター

ふくぼん

福祉教養科活動

☆ 産業教育フェア ☆

私たちが会場にいらっしゃったお客さんたちに紹介したのは、点字体験、シニアカー、電動車いすの試乗でした。点字体験では、まず、点字とはどのようなものか、点字の打ち方、読み方を紹介し、実際に自分の名前をシールに打っていただきました。皆さん、とても喜んでくださり、子どもたちも興味を持って楽しんで参加してくれ、たくさんの方々に「ありがとう」と言っていただきました。今回のイベントを通して、将来を担う子どもたちに、少しでも福祉に興味を持てただけなら幸いだと思いました。



☆ 松戸特別支援学校との交流会 ☆

月に1度ある交流会では、生徒さんのお宅に行き、2時間トランプや風船バレー等のレクや、おしゃべりをして楽しめます。一人ひとり障がいの程度が違い、コミュニケーションの取り方に悩むこともたくさんあります。そんな時、あるお宅のお母さんに、「この子がどんなものが好きで、何で喜ぶか私でもわからない。だから同世代のあなたたちが楽しそうにしてくれていれば、この子もうれしいと思う。」と言っていただきました。「自分たちが楽しむことが一番」という大切な事を学べる、特別で、貴重な、そして実習にもつなげることができる素敵な機会です。



委員会活動報告



中学生1日体験入学



夏休みに行われた中学生1日体験入学では、おもに車いすを使用した体験をしていただきました。車いすを押す動作や、スロープを上ったり下ったりする動作、段差などを体験していただきました。

今まで介助を行ったことのない中学生に一から介助方法を教えるのはとても難しかったのですが、私たちも、参加してくださった中学生からたくさんのお話を学ぶことができ、とてもよい体験入学になったと思います。



矢切こどもまつり



地域福祉の様々な分野で活動されている方々が一堂に会し、参加交流できる場が矢切こどもまつりです。次世代を担う子どもたち、高齢者、障がいがある方々、地域に住む全ての人々が交流する場です。そこで私たちは、点字でネームシールの作成、脳トレーニング器具など、福祉に触れる機会を作りました。多くの子どもたちに参加していただき、これからも少しでも多くの方々に、福祉について知っていただく機会になればと思います。



その他の行事

- ・ 実習報告会 (2・3 年生)



特集 1 「福祉教養科ランキング」

昨年に引き続き、福祉教養科全学年生徒に今年もアンケートを行いました！

3年生

Q1 ためになった実習

- 1位 特別養護老人ホーム・・・25票
- 2位 障害者支援施設・・・19票
- 3位 グループホーム・・・17票
- 4位 訪問介護・・・15票

Q2 苦労した授業

- 1位 介護過程・・・9票
- 2位 社会福祉基礎・・・8票
- 3位 ころとからだの理解・・・8票
- 4位 全部・・・6票

2年生

＜具体的な内容＞

- ・大変だったけどその分多くのものを得ることができた。
- ・記録に苦労した。
- ・利用者さんと話せて嬉しかった。
- ・達成感を感じた。
- ・利用者さんの笑顔に癒された。
- ・あっという間だった。
- ・介護の世界の厳しさを知った。
- ・自分自身の介護を見直すきっかけになった。
- ・次回の実習に活かすことができる実習になった。
- ・技術も体験でき、すごく充実した実習だった。
- ・上手いかわず悩んだこともあった。
- ・自分自身が成長できた。

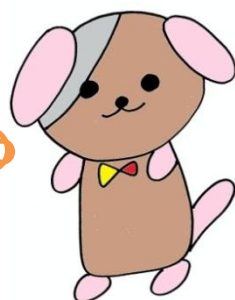
Q長期実習（15日）はどうだったか？

- 1位 大変だった・・・17票
- 2位 多くのものを得ることができた・・・16票
- 3位 楽しかった・・・9票
- 4位 辛かった・・・7票

Q卒業後はどうしたいか？

- 1位 就職・・・12票
- 2位 大学・短大へ進学・・・11票
- 3位 専門学校へ進学・・・9票
- 4位 その他・・・2票

3年生は、介護過程を展開する特別養護老人ホームでの30日間長期実習、2年生は介護技術の実践を主とした特別養護老人ホームでの15日間の長期実習、1年生ではいろいろな施設での初めての实習と、さまざまな経験を通した結果がでたぽん。



〈具体的な内容〉

- 介護過程
- ・介護計画の立案や、実習前の準備が大変だった。
 - ・3年生になりはじめての授業で、実習と直結した授業だったので。
- 社会福祉基礎
- ・難しいと感じることが多かったし、復習が必要だったから。

1年生

Q1 実習に行ってみて感じたことは？

- 1位 勉強になった……………14票
- 2位 大変だった……………10票
- 3位 楽しかった……………6票
- 4位 大変だけど勉強になった…2票
- 5位 その他……………4票

〈具体的な内容〉

- ・責任感を感じた。
- ・コミュニケーションをとることの難しさを実感した。
- ・仕事の大変さを感じた。
- ・大変だからこそやりがいを感じた。
- ・たくさん笑顔が見ることができて嬉しかった。
- ・人と接するのが楽しかった。

Q2 入学前と入学後の変化は？

- 1位 介護への気持ちの変化……8票
- 2位 勉強への気持ちの変化……6票
- 3位 知識が身についた……………2票
- 4位 変化なし……………8票
- 5位 その他……………12票

〈具体的な内容〉

- ・お年寄りや障がい者に対する意識。
- ・言葉遣いが丁寧になった。
- ・社会を見る目が変わった。
- ・友達の立場に立って物事を考えることができるようになった。
- ・勉強や部活への意欲の高まり。
- ・福祉に対するイメージが変わった。

全学年に質問してみました！

Q 1 福祉教養科に入学した理由は？

3年

1位 福祉に興味があったから

2位 将来、介護職に就きたいから

3位 資格をとりたいから・福祉教養科があったから

2年

1位 福祉を学べて資格が取れるから

2位 福祉について学びたいから

3位 人の役に立ちたいと思ったから

どの学年も資格が取れる
ことが、ランクインして
いるのが特徴です。

1年

1位 将来のためを考えたから

2位 福祉を学びたいと思ったから

3位 資格が取れるから

Q 2 今年度楽しかった行事

3年

1位 文化祭

2位 体育祭

3位 修学旅行 校外学習

2年

1位 修学旅行

2位 文化祭

3位 実習報告会

文化祭や体育祭などクラ
スが団結できるようなも
のがランクインしている
のが特徴です。

1年

1位 文化祭

2位 芸術鑑賞会

3位 国際福祉機器展 体育祭



卒業目前！突撃！先輩にインタビュー

卒業目前の3年生の先輩方に、2年生編集長が直々にインタビューを行いました。今回協力してくれた先輩は5名！就職・進学を控える後輩たちの参考になればと思います。

先輩方の紹介☆

- | | | | |
|---------|-----|-----------|----|
| 小泉 七恵先輩 | ・・・ | 保育の専門学校 | 進学 |
| 丹下坂桂子先輩 | ・・・ | 特別養護老人ホーム | 就職 |
| 谷川 智聡先輩 | ・・・ | 看護の専門学校 | 進学 |
| 関和 桃菜先輩 | ・・・ | 福祉系大学 | 進学 |
| 木川田遊依先輩 | ・・・ | 言語聴覚の専門学校 | 進学 |

編集長

なぜその進路を選択したのですか？



元々は就職したかったけれど、親と相談して、同じ福祉だけど視野を広げて色々な分野で人に貢献できるように、保育にした。ボランティアで松戸特別支援学校の訪問に行き、障がい者の施設でも働けたら良いなと思って…。

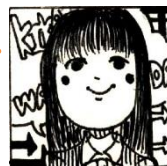


母が看護師をやっていて、幼い頃から看護師になりたいと思っていたからです。福祉教養科にあえて入ったのは介護と福祉の目線で看護の仕事をしたという思いがあったからです。



福祉ということに魅力を感じた。障がい者や高齢者のことを幅広く、深く学びたいと思ったからです。

入学時から福祉を学びたい、リハビリ関係の仕事がしたいと思っていました。ST(言語聴覚士)は音楽を聞く、食べるなど日頃自分が当たり前に行っている事が、できない人を手助けする仕事で、そこに興味があったからです。



今やるべき事、やっていなくて後悔した事は何ですか？



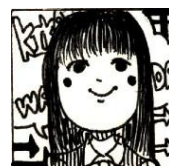
保育に進むには嫌いなピアノをやらなくてはいけないのが辛かった。親に「ピアノが大切だ」と教えられ、音楽の先生に相談し習い始めた。もし、保育に進むなら、早くからピアノを習った方が、後から自分のためになる。

やるべき事は、授業を集中して聞くこと。福祉科目は、特に集中して授業は聞いたほうがいいと思う。集中して聞くことで、テストで分からないところを「ああ～あんな事さういえば言ってたな。」といった感じで思い出すことがあるから。後で自分でやろうとしても、分からないので、先生が解説してくれているその場で自分なりに解釈して覚えるほうがいいと思う。後悔したことは、もっと早くに国家試験の勉強を始めておけばよかったということです。



福祉教養科に入る前は、身体に障がいがある人を見ると目で追ってしまったりしていたが、福祉教養科に入って身体に障がいがある人への視点が変わった。ちょっとした事でも手を貸したいと思えるようになった。中学時代は看護師になりたいと思っていたのに、遊んでいることが多かった。でも、高校に入って勉強をしなきゃいけないと考える事ができるようになった。

実習で社会に出る事を実感できた(働くことの意味が分かった、マナーや礼儀が身についた)。福祉や医療は他人事ではないと思い、勉強するようになり、障がいについての知識が身についた。



学校生活でやってよかったことはなんですか？



実習とボランティア。福祉教養科だからできる施設実習約60日間を経験できたことです。また、ボランティアは障がい者と触れ合う貴重なチャンスでした。実習もボランティアもやってよかったと思います。

ボランティアと人間関係だと思います。松戸特別支援学校に訪問し、障がいを抱えている子のお母さんと交流した時に、障がいを抱えた子どもの母親なのに、健常者の子どもの母親よりも明るくて、元気をあげに行くはずが逆に元気をもらいました。このことは自分にとって良い経験になりました。友達との人間関係は、団結したり、一緒に努力したり、お互い影響し合える友達がいて良かったです。



看護を目指している人は、勉強は絶対やった方が良い。
甘い考えで受けるのはよくない。



遊びも、勉強も時間を大切にする。やることは、しっかりやる！



1、2年生の間にオープンキャンパスに行くことは絶対大切。通って顔を覚えてもらう。目的をはっきりさせて、面接練習、基礎的な勉強、学校についての事前学習を行う。マナーや礼儀をしっかり身につけておくことが大切です。

学校生活でやってよかったことはなんですか？

編集長

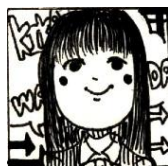


ボランティアや、沢山の人と関わったこと。

訪問看護実習で亡くなった方の死後の処置を一緒にやらせていただき、「おくり人」を想像した。身内が亡くなったことがないので、ご遺体を前になぜか泣きそうになってしまった。立って見ていたら「おい！何してるんだ手伝え！！」と言われてしまいびっくりしたが、「看護師になったときどうするんだ！」と思い手伝った。その後しばらくは亡くなった方の顔が頭から離れなかった。でも、その時の話を両親に話して、スッキリして、改めて貴重な体験させてもらって良かったと思った。



実習、ボランティアをやらせてもらって良かった。普通の高校生では礼儀作法とかやらないし、できないことだと思う。また、3年間クラス替えがないことで、行事などで一致団結できてよかった。



入って良かった、仲良しだから。行事団結、卒業したくないくらいのクラスに入って良かった。やって良かった事は、実習の記録を嫌々書いていたけれど、書いているうちに文章力が上がった。福祉科だから勉強できることなので、学べるうちはしっかり学ぼう！

進路を決める前に困ったこと、進路を決めた時に
やったことはなんですか？

編集長



面接の受け答え。面接の受け答えで、自己PRが難しく、自分のことを友達に聞いたりして、自分の情報を集めたりした。先生にやってもらった面接練習で、結構自信あったのに答えられなくて悔しくて泣いてしまった事。選考内容が面接のみだったので、面接の練習を10回以上しました。



新宿セミナーの雑誌を見て良いと思ったのをピックアップした。ボイスレコーダーで録音したり色々な人に面接は手伝ってもらった。(人によって質問が違うため)小論→最近のニュースをたくさん書いた。どう思ったか？改善点など



必修科目をしっかり勉強し、横川先生や親に相談した。お金や、これからのことなど、挫折や辞めたり簡単にできないから、しっかり話し合いで決めたり、大学の先輩の話を聞いたり情報を集めた。

学校が限られてしまっていて、千葉には言語聴覚を学べる場所がなかった。面接は事前に学習をした(例:言語聴覚士とは、どんな仕事ですか?)お金の問題が大きいので、本当にやりたいのか家族と話合った。月1にチャレンジキャンパスに通う。失語症の基礎など決まってもからも、意欲があることを見せ、顔を覚えてもらう。何回も行って本当に入りたいという意欲を表す。そして評定を上げるために、普通教科の勉強に努めた。



先生方からのメッセージ・・・

終わりは、はじまり

教務主任 大野 大輔

高校の頃（！もう遙か昔）に聴いていた歌の歌詞に、「ちょうど波のようにさよならが来ました。あなたはよくこう言っていた。終わりは、はじまり。終わりは、はじまり」卒業の時期になると思い出します。

しかし卒業は終わりではないと、強く思います。君達は、これから今まさに新たな路に進もうとしています。今までの全ては、総てこれからの新しい一歩のため。Graduate（卒業する）も「歩み」が語源です。人生は「終わり」と「はじまり」の繰り返しです。次の「終わり」＝「はじまり」に向けて一歩一歩しっかりと歩んでいってほしいと思います。終わりははじまり…。

サービスとは

進路指導部長 大倉 泰裕

サービスという言葉を知っていますか。売買した後にモノが残らず、効用や満足などを提供する生産活動です。財の生産以上に人との関わりが大きい活動であるともいえます。では、効用や満足とは何でしょうか。これは人によって大きく異なります。でも各人が納得するような効用や満足を提供できなければ仕事としては成り立ちません。自分が良かれと思って何かしてあげてもそう感じない人もいます。それでもへこたれずに個々のお客様を心から満足させるように努めていくこと、そしてお客様の満足が自分の満足であること、これがサービスなのです。妥協することなく、向上心と真心をもって自らの選んだ道を極めてください。

卒業後のご活躍を!!

第3学年主任 永嶋幸夫

福祉教養科の生徒の特徴は、学年を経るごとに大きく成長していくことだと思います。特に介護実習は現場で行う福祉授業の集大成であり、将来の仕事ともつながり、誰もが真剣に取り組んでくれました。実施後の介護実習報告会でも堂々とした発表が行われました。君達は福祉教養科での3年間で、福祉の専門的な知識や資格を身につけただけでなく、これからの人生の歩み方を学び、苦勞を乗り越える力を身につけてきたと思います。今後の進路先では、想定できなかったことや、未経験のことにも遭遇するでしょうが、問題解決しながら歩んでいってください。ご活躍を期待します。

赦されていること、そして赦す人に

3年7組担任 横川 真宜

私は今までの人生で何度後悔したでしょうか。悔んでいる暇があれば、前を向いて歩み出す方がどれほど大切かは知っている。それでも、28年も生きてると、後悔の一つや二つくらいある。人を傷つけたり、迷惑をかけたりしたこともあるだろう。それでもこうして生きている。ふと思うと、それは、「赦してくれている人がいる」そう思った。皆さんのこれからの人生、順調なことばかりではないでしょう。

これまでの高校生活のように、規則や信頼を犯した時、指導を受けて終わりという訳にはいかないでしょう。決して赦されぬこともあると思う。そんな時、悔やんでも悔やみきれず自分が押し潰されそうになるかもしれない。知っていてほしい、どこかに、あなたのことを「赦してくれている人がいる」

自分が赦されていると思えたら、どんなに心が楽だろうか。自分は生まれてきてよかったんだと思えたら、どんなに心が楽だろうか。

どんな失敗をしたって、自分で歩んだ道を認めてあげなさい。失敗は無駄ではない。迷惑をかけた人、失ったもの、そういったことにきちんと向き合い、成長しなさい。申し訳ないという気持ちがあるのならば、自分を育てなさい。そして二度と同じ過ちは繰り返さない。それが責任を果たすことだから。どんなに厳しく叱ったって、どんなに嫌われたって、私は皆さんを「赦しています」

笑顔

3年7組副担任 相浦 知子

なぞなぞです。「使っても使っても減らないものは？」答えは「笑顔」、先日我が家の子どもから教えてもらいました。減らないどころか、増えていくものだとも。

笑顔は誰にでも持っているもので、使うことで空気を和ませ人の心を融かします。笑顔は笑顔と呼び込みます。福祉の仕事だけでなく、社会全般は学校生活よりも厳しいものです。あなた方が持っている最高の笑顔で人々の心を癒していただけたらと思います。最後にあなた方自身も笑顔でいられますように。笑顔が消えそうな辛いときはここに戻っておいでね。

地域と共に

2学年主任 岩淵 健児

超高齢社会が進行している現代、福祉・医療の分野の重要性は増すばかりです。松戸市の常盤平団地では、孤独死ゼロ作戦のとりのくみが行われ、全国的にも有名になっています。しかし、この運動の中心になっているのは、団地とともに生きてきた70～80歳の方達です。団地の自治会では、福祉を学ぶ淑徳大学と協力して、施設に閉じこもらない、地域に根を張り、地域とともに歩む福祉をめざして活動しています。福祉科で学んでいるみんなが、地域の中で福祉活動の中心になっていく日は遠くないと思います。人を支える仕事は、相手の気持ちになって感じることから始まります。しっかり学び、自分の心身を磨いていってください。

コミュニケーション

2年7組担任 安留 千恵

誰かに向かって「自分の存在を発信」し、そして「やまびこ」(こだま)を受け取ることで「自分の存在を確認」する。コミュニケーションには、そういう機能と意味があるのではないだろうか。もし、自分からの発信に対して、どこからも自分の存在を確認する「やまびこ」が返ってこないとしたら、その人はどうやって自分を確認するのだろうか。自分とは、客観的には確認できない存在である。(「Humanics」より)

3年間、「福祉」を学んだ皆さんなら、この意味を理解し、自分のものにしてくれると信じている。

「辛いこと」と「失敗」

2年7組副担任 伊藤 志穂子

高校を卒業して、進学するにしても就職するにしても、自分で考えて行動しなくてはならないことがたくさんできます。楽しいことより辛いことの方が多いかもしれません。そして失敗することもたくさんあるはず。でも自分が選んだ道に進んだことを後悔しないでください。きっとどんな道に進んでも辛いことはたくさんあるし、逃げてばかりいても必ず追いかけてきます。立ち向かって乗り越えて、楽しいことをたくさん見つけてください。「辛いこと」は成長するための踏み台です。失敗は成功の基といいますが、失敗した原因をつきとめて成功するためにどうしたらいいのかを考えるから成功するのだと思います。人間は生涯学習し続ける生き物です。「失敗」からたくさんのことを学んで、立派な大人になってください。

乗り越えましょう

1学年主任 市村 薫

15才の子が高校の福祉教養科を受験し、福祉関係の道を歩んでいく。大変な決断だと思います。私自身は中学校時代、将来のことをそこまで考え、行動に移したことはありません。中学生が自分の考えで福祉を選び、目的をもって3年間専門的な勉強をする。たくさんの実習を通して実際の現場に触れていく。7限目の授業があり、夏休み中の特別授業・夏休み中の実習もある。乗り越えなければならないものが他の高校生よりも多いと思います。どんなにつらいこと・嫌なことでも時間がたてば必ず終わりが来ます。やりたくないこと・嫌なこと・乗り越えなければならないことを乗り越えたとき、自分自身を自分として認めることができるのだと思います。乗り越えましょう。

思いを形にする

1年7組担任 鈴木 恭太

今年1月初旬、茶道で使う「楽茶碗」を作る陶芸家のドキュメンタリーをテレビで見た。そこでは、十五代・400年にわたって受け継がれてきた楽家の伝統と、十五代目・楽吉左衛門の表現者としての個性のせめぎ合いが繰り広げられ、それが調和の取れた時、いい茶碗ができるのだという。

思うに、介護や生活支援も陶芸と同様、「思いを形にする」という点では同じかもしれない。介

護者・支援者の利用者への「思い」が、利用者のよりよい生活を作るのである。

人の営みは、どのようなものでも少なからず創造性を必要とし、その積み重ねが社会や時代を作ってきた。卒業する君達も、利用者への「思い」をよりよい介護・支援という形にしていって欲しい、そのことで社会や時代を作る一員になって欲しいと切に願う。

「相手の立場に立つ」ことの重要性

1年7組副担任 河上 隆広

平成24年の4月から松戸向陽高校の福祉教養科の職員として、ホームルームや授業、校外実習の巡回や集会等で皆さんに関わってきました。その関わりの中で気づいたことは「相手の立場に立つ」ことのできる生徒が多いことです。これは、ボランティアや校外実習で、様々な人にふれあい、磨き上げた技術だと思います。この「相手の立場に立つ」ということは、福祉の現場で働くときも、日常の生活を送る上でも大切な技術だと思います。3年生は福祉教養科で磨いたこの技術を社会に出ても忘れないよう、1、2年生はもっと、様々な体験を通して細かなところまで考えられる人になって下さい。

ボランティアは〇〇〇

福祉科目担当 畠山 滋

昨年12月、私は「ボランティア・スピリット賞 全国表彰式」の会場客席にいた。本校ボランティア部も、ブロック賞を受賞していたからだ。最優秀賞(文科大臣賞)の1人に、東日本大震災の被災地に遠くから何度も足を運び、被災地の人々に手打ちうどんをふるまった女子高校生が選出された。受賞直後、司会者が彼女にたずねた。「一番つらかったことはなんですか？」すると彼女は急に顔をくしゃくしゃにして言った。「え～、そんなこといったら、楽しいことばかりで・・・」。

そう、ボランティアは楽しいのだ。なぜ楽しいか知りたい人は、一度やってみてください。

卒業おめでとう

教科福祉担当 須藤 文乃

3年生の皆さん卒業おめでとう。高校生活の3年間、7組の仲間と共に過ごした時間、専門科目での授業や、施設実習での体験、行事の中心となって1、2年生を引っ張ってくれたこと、一生の思い出となるでしょう。すべてが、皆さんの力となっていくはずです。

社会に出ると、今まで以上に失敗や困難で悩んだりすることがあると思います。そんな中でも福祉教養科をやり抜いたことに自信を持って切り抜けていってほしいです。そして、その困難から多くのことを学び、自分の力にしていける人になってもらいたいと思います。乗り越えられた自分には、プチご褒美を忘れずに。

人との出会いを大切に

教科福祉担当 堀澤 佳世

私にとって、みなさんのクラス、そして一人ひとりがとても大切な存在です。なぜかと思うかもしれませんが、私が社会人となり初めての授業が、みなさんのクラスの授業でした。みなさんが真っ直ぐ私を見ていて、私は心臓が飛び出そうなくらいドキドキしたことを今でも覚えています。

3年間という高校生活で、みなさんは多くの貴重な経験をし、実習等を通してたくさんの出会いがあったと思います。これからも、人との出会いを大切に、他の人生そして自分の人生を大切にしてください。福祉教養科で学んだこと、経験したことに、誇りと自信を持ちこれからの人生を歩いて行ってください。

これからもみなさんのことを応援しています。2年間、ありがとう。

しあわせはいつもじぶんのこころがきめる。

教科福祉担当 宮山 篤

私が大好きな詩人、相田みつをさんの作品の言葉です。人は熱を出した時「早く熱下がらないかな。」と思い、健康でいることの大切さに気づきます。給料日前に「お金がない、我慢しよう」とお金がなくなって、はじめてお金が大切だと感じます。人間はなにかを失ったり、自分の身に降りかかって、はじめて「日常」の幸せと重要性に気づくことができます。もしそんな日常を日頃から「幸せ」と感じることができたなら、一日をもっと大切にできると思います。欲深くならず、日々生活できることに感謝し、これからの人生を歩んでください。

編集後記・・・

24年度の「葱ぼうずの詩」を読んでいただきありがとうございます。またいつもの年とは違った「葱ぼうずの詩」に仕上がっていると思います。どうすれば皆さんに楽しんで読んでいただけるのか、読みやすいかを考えました。気軽に読んでいただければ良いと思っています。去年に引き続きアンケートを行い、今回は進路別に先輩5人にインタビューをさせていただきました。先生達の顔なども手書きで行いました。そういうところも楽しんで見ていただけたら嬉しいです。

次回も楽しんで見て頂けるような葱ぼうずの詩を作りたいと思っています。ありがとうございました。それではまた次回・・・



編集

3年 秋山綾香・五十嵐亜斗夢・木村利奈・栗原楓・小泉七恵・丹下坂桂子・津留桃子

2年 飯野和・宇田川優・千葉愛美・松崎智大・宮村綾・吉田悟

1年 加藤立・佐藤彩・高野優音・西成田千春・藤原茉優・松本華奈

監修

横川 真宜・堀澤 佳世・宮山 篤



New Orange Volunteer center

センターの活動内容

New Orange Volunteer center は校内ボランティアセンターとして松戸向陽高校のすべての生徒に、ボランティア活動の楽しさと人との交わりの大切さを伝えたく、ボランティアの情報提供及び、各ボランティア団体との仲介活動をしています。向陽生に甘酸っぱい青春を！！

ボランティア募集情報の受付（生徒ボランティアの募集依頼）

若い高校生の力を必要としていませんか？

皆さんの団体で、高校生ボランティアを募集していませんか？

New Orange Volunteer center までご一報ください。

ボランティア募集は

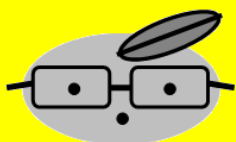
- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 団体名称・募集イベント名 | 6 ボランティア内容 |
| 2 日時・期間 | 7 団体代表者名・担当者名 |
| 3 活動場所 | 8 御依頼者様の |
| 4 募集人数・募集期限 | 住所・電話・FAX 等の連絡先 |
| 5 行事保険加入の有無 | 9 その他・備考 |

を明記の上、下記問い合わせ先まで郵送またはFAXでご連絡ください。

なお、当センターに初めてボランティア募集をする際は、団体のことがわかるパンフレット等を合わせて提出して頂きますようお願いいたします。また、誠に勝手ではありますが、個人様や夜間の活動など高校生の活動として相応しくないと思われるものは、こちらでの情報提供を控えさせていただきます。

※場合によってはボランティアを受付できないものもあります。

問い合わせ



New Orange Volunteer center（松戸向陽高校ボランティア部）

〒270-2223 千葉県松戸市秋山6-8-2 松戸向陽高校内4F

TEL. 047-391-4361 FAX. 047-391-8129

URL: <http://www.chiba-c.ed.jp/m.koyo-h/021Vcenter.html>